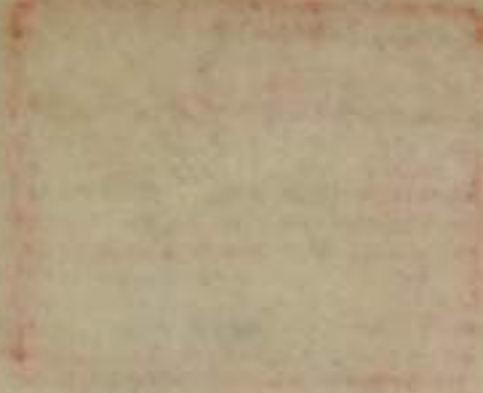


震災紀聞

三

9
759
3





安政二年乙卯地震雜記

安政二年十月二日夜四時江土地震出火場所分 静鑑堂藏

天災地凶の命あり時あり幸病の名医を救ひ國守ハ存君を救ひ
江の西の馬の如く幸甚も幸ひなり禍も又禍あり乾坤一変
す所も昌幸を鏡をみるなりや

以て安政二年十月二日秋四時俄に大地震あり出北の方より宿六半
の麓より小つゝ系掛を越えのりて焼く新より東地への上江戸町より又
角町あけや町辺りもえ出五町のりて焼く大の外五十百西側のりて田
中ハ大半を焼く三谷を過り小及江田町山川町井つやけ北の道より
より出火して芝居町三丁九番の道をうけて河原の焼屋元町山の宿出火
のりて河原中田の宿を越え山越の宿の地内もつゝりまが
並木町通り南れ約る所へは焼く出火して谷井庄水橋ありて代地



田の形可少しヤリ。約々。在例。初下。と云。料理。茶。ヤ。在例。も。す。所。之。地。
町。之。形。一。西。字。屋。が。一。そ。は。延。一。番。組。を。法。局。カ。ヤ。と。同。一。地。之。約。之。の。因。
百。助。様。テ。北。の。方。カ。上。ハ。約。程。堂。上。の。在。例。湖。カ。ま。不。交。丁。辺。ハ。極。好。の。多。分。
又。森。下。田。大。半。と。同。一。門。社。山。本。堂。へ。つ。び。く。西。東。山。の。片。れ。兼。や。橋。の。角。形。と。
丁。形。地。り。の。後。又。下。口。堂。有。地。地。也。町。家。カ。つ。つ。れ。る。ま。お。店。辺。サ。一。ま。
下。谷。畑。の。有。店。サ。一。又。唐。路。と。通。り。多。分。の。多。分。に。在。例。立。十。文。字。意。義。
下。谷。の。地。形。の。一。つ。あ。る。ハ。ま。ま。あ。け。る。ま。い。り。の。又。之。の。と。通。行。丁。辺。ハ。大。一。
と。云。金。物。ハ。少。く。坂。本。田。ハ。大。の。一。つ。れ。同。一。目。三。目。目。ヤ。ケ。切。手。町。地。也。サ。一。
同。山。下。通。ハ。地。之。一。つ。れ。西。具。豆。丁。山。本。田。丁。辺。大。の。一。つ。れ。又。一。つ。六。千。駄。本。谷。中。丁。
人。二。坂。辺。サ。一。兼。之。字。坂。上。サ。一。根。付。ハ。二。丁。と。一。つ。れ。中。橋。を。二。三。軒。の。多。分。一。つ。れ。
上。橋。付。存。ま。り。の。ま。ま。下。谷。カ。町。二。丁。目。三。丁。の。橋。有。り。つ。り。出。大。一。と。同。一。丁。目。本。

元。来。ハ。延。一。目。二。目。目。境。有。り。の。例。一。つ。れ。と。云。池。の。ま。ま。延。一。目。極。大。後。は。延。一。目。の。地。
山。人。兼。之。字。屋。の。一。つ。れ。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
と。云。の。表。通。ハ。多。分。の。多。分。に。湯。島。天。神。カ。通。行。丁。辺。の。一。つ。れ。兼。大。の。一。つ。れ。又。天。
橋。建。出。社。の。在。例。サ。一。と。云。の。一。つ。れ。つ。り。丁。三。組。丁。地。也。と。云。一。つ。れ。兼。人。の。一。つ。れ。
町。家。サ。一。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
家。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
サ。一。と。云。の。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
田。町。也。と。云。の。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
つ。り。の。白。山。カ。居。障。の。サ。一。と。云。の。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
ま。あ。例。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。
就。是。橋。邊。野。在。例。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。極。大。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。延。一。目。の。一。つ。れ。

伊豆田中お次依田井の内橋やけ、安岡より本橋跡の山口橋やけ、志村
柳跡、は元橋跡、林間橋跡、新屋敷、南西角之保田、藤井、飯島、
豊、この北、遠敷、和泉、橋、遠敷、依田、橋、消防、又、伊成道、石川、
馬、田、橋、の、や、け、出、小、屋、敷、大、半、つ、れ、伊、豆、橋、や、け、神、田、昌、平、橋、通、建、
那、橋、内、各、橋、表、を、危、岩、の、河、川、所、内、其、の、所、に、花、町、全、屋、宇、田、大、半、
の、こ、玉、川、の、在、土、花、の、こ、ま、外、神、田、昌、平、橋、通、少、く、つ、れ、湯、の、橋、河、
の、神、田、社、つ、つ、か、く、又、下、通、り、花、房、町、仲、所、を、下、月、或、下、月、は、田、成、成、成、
町、家、東、西、通、道、造、り、大、半、崩、れ、お、生、所、の、少、く、ま、の、若、者、橋、表、門、通、り、
は、田、橋、屋、十、文、字、よ、う、う、つ、れ、ま、の、多、く、橋、の、か、ま、り、あ、ら、ま、い、
中、又、新、の、橋、の、つ、つ、か、く、の、ま、の、か、ま、り、あ、ら、ま、い、
サ、の、新、の、橋、の、つ、つ、か、く、の、ま、の、か、ま、り、あ、ら、ま、い、
サ、の、新、の、橋、の、つ、つ、か、く、の、ま、の、か、ま、り、あ、ら、ま、い、

御子又相違ひ多分の事なり 又橋草内門内西角の園の原の海辺柳
原道一の之等所老木の所辺年々橋通り此邊多分の事なり 又おま
り池邊甘ん町之目角大ひの原のまより市橋橋通り多分の事なり
是よりいお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊の
いお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊のいお殿の坊の
又神田河原町通り今川橋通り多分の事なり 神田一志のサのいお殿の
橋の原の原のサのいお殿の

下、色、大、江、戸、地、産、打、鏡、場、所、指
但、一、〇、三、千、六、百、一、里、所、七、百、三、里、サ、町、地、産、打、鏡、場、所、指、
〇、西、大、名、方、一、万、三、千、二、百、六、十、八、戸、前、〇、西、旗、本、方、二、十、四、万、三、千、二、百、廿、五、戸、前、
〇、西、家、人、元、方、二、万、九、千、三、百、十、三、戸、前、〇、寺、院、方、五、千、三、百、八、十、七、戸、前、

中風説

一 為越西福寺門前、三層門也、集り、往き、死人持込、了り、野
敷、

一 或祝、回向院へ、無縁之者持込、者、夢門を、も、大、引、位、之、子
之、旨、

一 地震、之、支、方、立、白、節、門、奇、を、就、共、持、入、持、集、也、
最、在、高、乃、交、也、

一 死人、之、入、物、於、れ、買、交、ら、輕、先、を、失、念、前、所、を、居、多、
以、つ、之、之、可、持、集、り、と、承、念、の、持、移、ハ、先、之、過、當、多、子、の、持、卷、
心、を、是、も、最、在、高、乃、交、也、

一 山谷、主、左、料理、屋、湯、又、若、上、り、り、水、れ、湯、釜、り、出、火、燒
死、之、内、

一 吉岡、町、湯、屋、持、寄、之、格、子、を、存、在、者、多、野、天、井、多、入、湯、死、
在、の、也、又、交、也、清、水、所、持、同、持、之、分、子、及、也、

一 二、月、之、湯、屋、多、多、幸、新、助、り、也、此、由、あ、之、人、多、驚、為、之、
左、尹、勢、多、湯、集、之、与、り、三、人、死、也、持、集、り、也、

一 奇、者、多、越、つ、也、同、也、在、屋、多、右、地、震、中、出、産、之、催、多、
父、亭、主、共、死、之、皆、一、同、之、死、也、百、心、丈、丈、二、分、才、致、也、持、拍、
扇、一、安、産、致、一、也、家、も、死、子、之、及、之、分、中、也、

一 青、木、弥、太、郎、型、方、集、り、今、日、四、朝、見、也、也、不、可、形、多、也、
死、十、五、人、也、也、也、一、中、字、中、立、四、福、也、也、死、子、也、

予子と右人数の内

一 西福寺寺中ニ食焚斎夢ニ如ク呼者有之^加捕外へ出
り処呼心者有一向ふお兄の百小用致し主屋入可中地
震多右共如院ノ中院ニ渡レ坊主三人共塵死存
命斗多幸子有之^加一寺子有

一行法衣四丁多四十八人松戸多百人即死之内看出
一 元蒸悍者多活多四原所三丁目斗多拾二人塵死
交配所六ヶ町極多四十六人即死之内又廣小路極小
一 施り致者多早草百俵十丁早草百俵持
為之食物夥致事之内

一 十八日午朝分打し雨著多風西多舞^加交々^加程烈致
塵土于外落の音多^加有之^加急色^加九^加
夫雷声六七者之強く七可お草^加存の如一夕立^加海
ハ口^加空晴静ニ^加お^加
一 震後翌三方^加割下^加有^加津^加送^加門切
無^加過^加り^加

一 一回向院^加投^加之^加更^加自^加巴^加那^加り^加内^加
一 植木屋^加在^加街^加活^加多^加博^加收^加多^加百人位^加塵^加死^加之内又^加大^加
保佐渡上^加在^加表^加格^加別^加子^加多^加心^加多^加扇^加持^加下^加塵^加
大^加津^加多^加役^加人^加中^加塵^加死^加外^加怪^加系^加人^加有^加多^加多^加
一 葉川下^加松^加平^加伊^加多^加才^加也^加裏^加自^加外^加兄^加清^加の^加地^加産^加致^加
勢^加古^加城^加表^加屋^加上^加漢^加也^加一^加怪^加系^加人^加有^加持^加中^加の^加出^加

うとふおろ

一 奇来子大屋交之妻始為社を始メ交之堂宮之
布社之方夫大方稱之破後ふおろ見三居之尤相成之破
損津之者之是一奇子也

一 古之右塔之ふおろ多ふれ也

一 松崎権左門方の中破損津家も者之津口より下

用人家内之者ふおろ屋れ居之り色不出火付時之津

出之変家内ふおろ女別者津出之り一忠吉屋之津口

一 廿日舟船十郎足舞被方之津家も津口より下

一 古京河之死人千十人之間之方是松古至出安之同也

愚者活之由

一 同人活之由本橋邊之怪子之由

一 松下至話之去十の風雨之夜筑地之津波来りて下端

大に強き一舟揚り焼灯多ク怪来りて一田右舟講家者

有るて大新迎之出之津く望城入奪者れ之台津波在何

之りて其之台津波之り口宿言其之品川多ク津

浪多ク其退之津中ふりて一由屋山揚り其退之津く望城在

之内全新城之津中より内津家も其在之津屋出座其退之

七津浪を唱りて少くハ強し其其城新其其之是也

一 津之海山台之り

一 青木其のり其出之代河津方消屋其其樽其其之

方々キレ飛去可業多或不在根ノ為居あふ下ノ
為去ノ可無能ニ氣なく

一 同ノ人其ノ飛出シテ隣家溝ノ中ニ叫聲ノ可燧灯持
垣押シ去リ去リ去リ先方家来テ瓦を才ニ屋押
也少ノ人ノ不字主村山了ニ勝ニ梁を看ムル一居者
梁を少ク此持言ニ一上テ引出方初テ毒も三ノ好其後
ニ去ニ去リ去リ出方中ニ毒多ク收留又何人毒多
去ニ去リ去リ去リ去リ以門出シ一為去リ去リ去リ去
ニ力方ノ無出再々

一 植木屋其ノ中ニ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
口知程も其居居持去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去

叫口声去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去

一 日ノ宿リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
修理集ト去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
掘出シ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去

一 門外ノ方屋去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
丁度裏ニ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
去リ去リ去

一 膳室了時去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去リ去
名者ニ由

一 沙草親音塔を斬破損尺ノ下九リニ中程ノ先雲の
方ニ去リ去リ

一 根来堂の娘十二才に死す内家内一統助り

一 杉田常樹家内一統并卒左の妻は妹母は逗留す事也

一 由多敷全十一人至死卒左の妻人助命す由

一 吉岡町多高親至死極幼少あり子助り也

一 深川遠多老人ふお見心知也堀介付心知六日目二埋
水の中多事子に事也

一 吉原町二階多抱身備居心知二階居於全克二階ノ
窓より出逃る旨尤客主某不し薄中者之内生席ニ
居合もその其皆助り也

一 天王町福本ノ中水茶屋庭中より地震等不図水吹
出至多水の性も宜先月廿五日多事此ハ大師の

故ともよりい人も多し小井戸例振り物振り知地震
後生候一水吹出—少く集心内

一 戸手宿多事同人親類之者阿敷伊勢守殿納戸頭元勤
中此此地至屋付設也—出心同設也云人若心知居此漢
逃不事し在寺神主事多逃道お澄し—心不眼分

一 公用方二人石付多事—於合五人多中澄居心内不図少
く明りも不付明心方く下心—条心知屋指の小聖
為心処多丈と汗之穴居也—と逃出心よ—

一 堀田侍中曾殿家来老人清家ノ中ノ腕を梁田表れ
居心外家来助ケ可申と存心変火多事百近ニ燃来
り危く敵心腕を切若し志引出—助ケり善人初

新美川一川

一 裏猿木町逸斤万ノある屋敷多野ノ居也此地

二 此家申すノ界キ之例ル見覚知母居生

怪事念を之申上之天色を屋不富不富

之申すより以居生怪助り也

一 宇橋去人并小橋住宅致品不暇自涉早新橋

宅中及地震之後當時居宅之無靴旧宅ノ見

也知津中怪事申す者奇哉命命ノ天ノ奇也

歎息いしし一也を不覺心也

一 吉原町岡本屋亭主古留智多存也知立辰

大急流亭上火子并抱抱女七十人程不始即死

父より中風之症多存也留右を助り出りて

一 夜之に再急之症ありて蒼色多留直火中

死也

一 稲葉無敵少補筑地上屋浦主轉古場淡亭外大破

本不猿江中屋敷主注居向不始淡亭上狂燒老

母夫無難之退居其妻付去人老女一人家中

二人子供一人即死怪事人ノ大急流子也

和名移道森堂表ノ前湯屋ハ聖旨ノ因湯

一 某朝小島一行長十三日十五日迄無縁

多持而張札出

一 嘉川海津也ノ仙居通急能者宿江戶方地

黃蘗

木所

羅漢寺 二千百人

日蓮

淺草

慶印寺 千六百人

因一坊派

下谷

宗延寺 七百二百人

西本願寺掛所

輪番

與樂寺 六百四人

東日

日

遠慶寺 千三百人

時宗

日輪寺院代

洞雲院 二千百人

右十一月廿日施緣鬼他行被

似付石山寺

可了後

首冬初二日地大震人家山川顛沛不可記實陵谷之變異世
所希有也因草古詩一篇以記其事因才短詞拙豈足俾後之覽

者有感焉

安政二年歲乙卯十月壬辰亥初更四隣人定夜寂寞遙聞乾位祭車聲
忽拉臥床卷三尺心魂如夢身如醒沸騰若立走馬背響似千雷
落比隣堅脆齊摧一瞬際遠近猛火達天津十餘萬人空為鬼
二十萬家作灰塵夫妻因受急急刑君臣共臥櫓山嶺黑氣突天
邑鳥落地坵濇淪亦統人人要生他不遑親為子死子死親惆悵如
癡怨神佛涕泣顛狂訴蒼昊獨疑天柱地軸折今日乾坤一時泯倉
皇欲造巨頓縮盤根竹裡何暇卜死生不審夜鶴悲存已難分深妻哭
本岡桑田碧海變古來昭存史傳左氏備語周世季長明作記元曆年

存るいあげなむい

- 一 骨継どぞう
- 一 骨継どぞう

一 あまのつ日本茶

十月二日甲申

当日

ちるり

考方より大工町

物あや

ひま

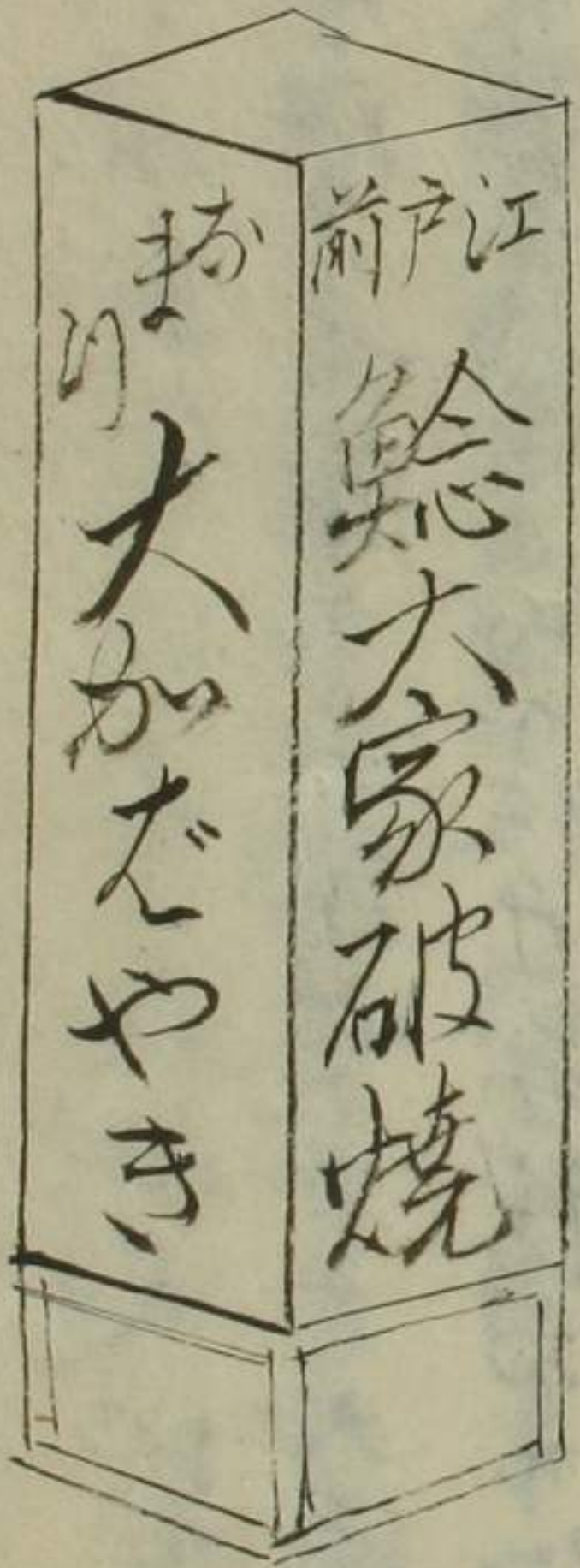
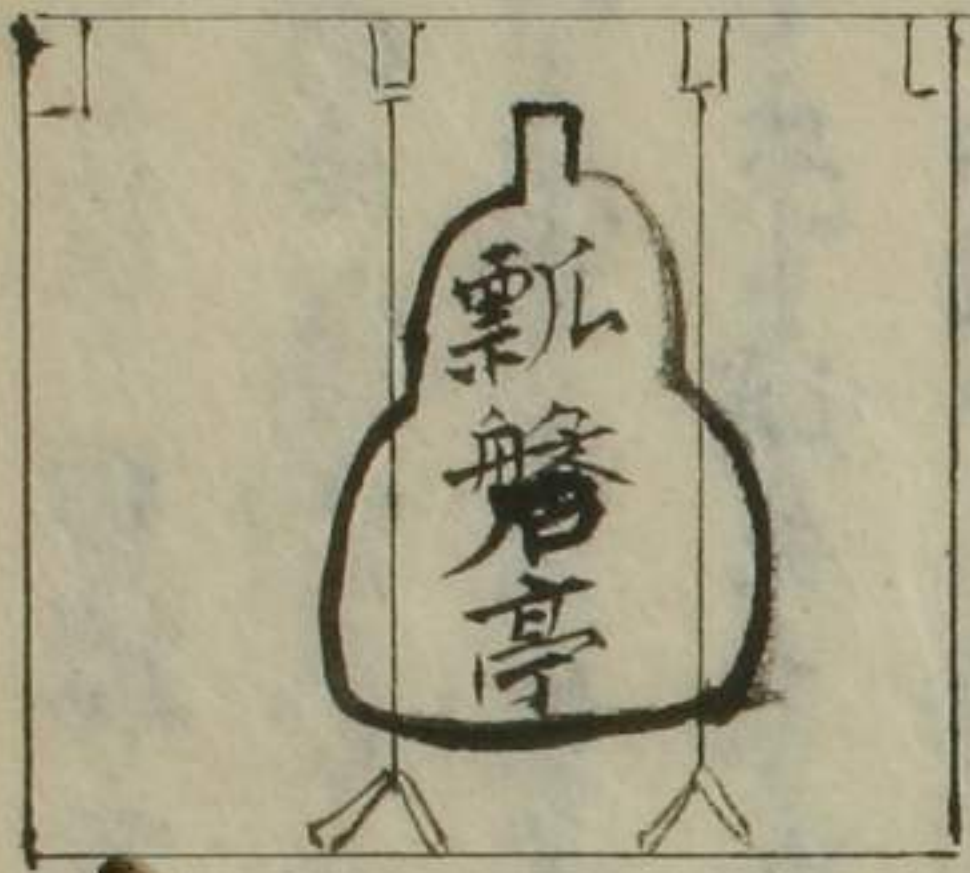
焼くあまつて職人のいりてをくひ

地産けん 法希の酒の 餘狐 雷屋 火事 焼く人の飛

おもしろい大ぢあん家いづりて大魚をかへあいてごちの方すま
 いりまよ合ま花と花でつづれて秋より子供がきつてやるといひ
 まゆりてあつちの方(サマ)をせ(火)の(あ)い(ま)を(つ)る(ま)げ(る)人(こ)を

えびもゆらぐらぐらの方(あ)ま(ま)よ(合)や(ら)る(ま)を(つ)る(ま)げ(る)人(こ)を
 ねぢねがむねのまをいりてま(あ)る(ま)を(つ)る(ま)げ(る)人(こ)を
 かつ出さ大魚いづりて大魚かへあいてごちの方すま
 人合大魚いづりて大魚かへあいてごちの方すま
 ねぢねがむねのまをいりてま(あ)る(ま)を(つ)る(ま)げ(る)人(こ)を

○ 骨抜 即 席 決りや 治 火出 住か 外家 医前 鈔



世はよりちやうちまうつゝ

天川や義平ハかこころん

まつのたてをいずむ切

ほくろ所を山くち

ろや人の世を信であまの地産人のかせを

○吉原をなぐるえ振とあつぬりて
か。妙。中

百万の額をいせぐもちほくし西根をせつドもの

○吉原で或人で死ぬる人

あを売つてさせめて

○水番せ治役

江戸のはくもささく極あつこいヤイ

○妻もいんころり

おきりいれでいかい

○あかろり

高きちぢりの山といをのれがとたハヤイ

○おまさん

大教舎無事

鎧大御君をかたの侍

大志ん大いり記そのまきおちちり火のうをく四方八方まゝして
ん一 家くつがれてこちうませんむまびを志てんは用意のまき
りめ一 おまきままをうやれくまぶといぢちんめといふうちあ
のそまぐ一 つづいのちとまのころりこそやうくいんまうつ

市中庵静丸章

大震

よのむす木の図

安政二乙卯年神世月二日の木大地産は木

卯仁直行り了木

御お備下志木

俄よ初るほのつ木

あひまんのあさ木

人皇三十代

元恭天皇五年丙辰地大震

天武天皇白鳳七年戊寅冬元紫地大震地裂廣二丈長三千余丈

民屋壞倒人畜壓死者甚多

同十三年甲申冬十月十四日地大震京師及諸國山崩川溢城邑毀

壞人畜多死伊与國溫泉壅土左國田圃五十余方頃陷沒為海

是夜東方有聲如雷伊豆島西北海中土湧起三百余丈別為一島

聖武天皇天保六年甲戌四月地大震山崩川壅土民多死

同天平十七年乙酉四月地震三日不止美濃殊甚

清和天皇貞觀十二年己丑五月二十六日夜陸奧地大震夜有光

如昼地裂城壞海濤涌起數十里溺死千許人七月肥後大

風雨板樹倒舍人畜壓死海溢浸六郡田野數百里為海

五十代

陽成天皇元慶二年戊戌地大震關東特甚相摸武藏公私廬舍一無

全者人多壓死地陷路不通

同四年庚子地大震大極殿階破城垣及士民廬舍多壞

光孝天皇仁和三年丁未地大震上避于南庭官署及兩京士民屋舍

壞額是日武內及七道諸國咸震屋倒海立壓溺人畜多死

朱雀天皇天慶元年戊戌夏四月地大震

圓融天皇貞元二年丙子夏六月地大震宮城垣墻及神祠佛寺民家

等多壞壓死者無數

後一條天皇治安二年壬戌地大震

後鳥羽天皇元曆二年乙巳七月地大震

鴨長谷方丈記元曆二年の比大なるありき

向す出づれば川をうらふ海がふきく陸をひききりまはして
あまき向うにいづれれて海をまらひし渚をくぬ波をさ
まらけり初め是のちとをまらけり波をぬのけりまは
まらけり堂舎塔殿一とをまらけり或はこれ或はこれ
るる堂舎塔殿一とをまらけり地のさし家のやま
まらけりあまき向ういづれれば海をひききりまはして
あまき向うにいづれれて海をまらひし渚をくぬ波をさ
まらけり初め是のちとをまらけり波をぬのけりまは

八十三代 土御門天皇建仁二年壬戌正月二十八日鎌倉兩日並出地大震
九十二代 伏見天皇永仁元年癸巳夏鎌倉地大震死者万餘人

九十五代 後醍醐天皇元弘元年辛未七月諸國地大震富士山崩數百丈

後村上天皇正平五年庚寅 北朝崇光天皇 觀應元年 五月廿九日より

あまき向ういづれれば海をひききりまはして
あまき向うにいづれれて海をまらひし渚をくぬ波をさ
まらけり初め是のちとをまらけり波をぬのけりまは

同十六年辛丑 北朝後光嚴天皇 康安元年 六月末より

あまき向ういづれれば海をひききりまはして
あまき向うにいづれれて海をまらひし渚をくぬ波をさ
まらけり初め是のちとをまらけり波をぬのけりまは
あまき向ういづれれば海をひききりまはして
あまき向うにいづれれて海をまらひし渚をくぬ波をさ
まらけり初め是のちとをまらけり波をぬのけりまは

ついでまたあつて、そのついでに、

同年八月未だ又、ついでに、

系、ついでに、

ついでに、

ついでに、

百四代 後土御門天皇明應七年戊午申年五月、

ついでに、

百九代 西親町天皇天正十三年乙酉六月二十九日、

大震、畿内及東海、東山、北陸、三、

右甚地裂、水涌、廬舎碎、陷、死者不可計、

百九代 後水尾天皇寛永四年丁卯、關東地大震、

軍代

明正天皇寛永十年癸酉正月二日、宣下刺、關東地大震、

同年五月五日、越後國地大震、

百二代 後光明天皇慶安二年己丑六月二十日、子刺、江戸地大震、

百十三代 靈元天皇天和三年癸亥日光地大震、

百十四代 東山天皇元禄十年丁丑十月十二日、午下刺、江戸地大震、鳴動、

百十六代 同十六年癸未十二月二十日、酉、關八州地大震、丑中刺、江戸城下大破、

百十七代 桃園天皇寛延四年辛未四月二十五日、武州高田地大震、

百十八代 光格天皇天明二年壬寅、關東地大震、

同文化九年壬申十一月、關東地大震、

百二十一代 仁孝天皇文政二年己卯、畿内近國地震、

同十一年戊子十一月十二日、辰下刺、越後國長岡地大震、

同天保元年唐寅七月七日申刻過京師地大震連翌年

同弘化四年^{七年}丁未三月二十四日夜亥刻信濃國飯山善光寺松代上

田等地大震山崩川壅地裂城邑破壞大火洪水死亡者七万人同日

同刻越後國地大震地裂水砂涌出

今上皇帝^{六年}嘉永六年癸丑二月二日巳刻相摸國小田原地大震山

崩壓死二十五人

同安政元年^{七年}甲寅六月十四日丑刻統内近江伊勢尾張參河紀伊

播戶丹波丹後伊賀越前地大震死六五百五十人

同年十一月四日辰中刻五畿内丹波丹後但馬近江伊賀紀伊美濃尾

驛遠江甲斐相摸武藏上総安房地大震伊勢志摩信濃駿河

土佐殊甚山崩川溢田園為泥海有火災城邑毀壞死亡多撰

州大坂豆州下田大地震海濤湧起山崩川壅人畜死亡多

此後即今之地震也記事在前元祿十六年癸未後一百

五十三年別二條

地圖二枚

おしづの記程書一帖

春平堂地震出火細鑑一帖

文

此書係外所書所為之書
 其書之體裁與前書不同
 其書之內容與前書不同
 其書之筆法與前書不同
 其書之墨色與前書不同
 其書之紙張與前書不同
 其書之裝訂與前書不同
 其書之保存與前書不同
 其書之價值與前書不同
 其書之地位與前書不同
 其書之影響與前書不同
 其書之地位與前書不同
 其書之影響與前書不同

天

